

## 第3・4学年 国語科（複式）学習指導案

日 時 平成21年9月30日（水）5校時  
対 象 3年生 男2名 女4名 計6名  
4年生 男4名 女1名 計5名  
指導者 細川 百恵

### 〔3年生〕

- 1 単元名 大事なことをたしかめよう
- 2 教材名 「すがたをかえる大豆」  
「食べ物はかせになろう」  
(出典 光村3年下)  
補助教材「すがたをかえる米」(自作)

### 3 単元について

#### (1) 児童観

児童は、「ありの行列」におけるリーフレットづくりの活動で、説明文の基本構成「初め—中—終わり」や「段落」について学んできており、段落をまとまりとしてとらえる力がついてきている。また、音読にもよく取り組む。しかし、初めて出会う文章ではたどたどしい読みになり、読み取りでは、理解にやや時間がかかる児童もいる。

書くことについては、「知らせたいことを整理して書くこと」を学んできています。しかし、書くことの技能や量などは個人差が大きく、段落の中心を意識して書くことや段落相互の関係について意識してかける児童はまだ少ない。

#### (2) 教材観

本単元に関わる主な指導事項は、「目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」(読むことイ)「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」(書くことウ)である。

「すがたをかえる大豆」は、身近な大豆を題材にして書かれた説明的文章である。文中の加工食品は、見ただけでは大豆からできているとは気づかないものも多く、意外性をもって読み進められる内容である。また、3段落構成、中心文、キーワードが明確で、説明文の読み取りの力をつけさせる上で有効な教材である。

「食べ物はかせになろう」は、読みの学習を通して身につけた力をもとに、疑問や興味を持ったことについて、必要な事柄を調べ、情報を取捨選択して文章にまとめるという活用型の学習内容である。

### 〔4年生〕

- 1 単元名 材料の選び方を考えよう
- 2 教材名 「アップとルーズでつたえる」  
「四年三組から発信します」  
(出典 光村4年下)  
補助教材「大田代小学校紹介カード」(自作)

### 3 単元について

#### (1) 児童観

児童は、「『かむ』ことの力」において、接続語や中心語を手がかりとして、段落の要点をまとめ、それをもとに説明文の構成を読み取る学習をしてきている。段落と段落の相互関係を文章構成図にまとめる学習では、どの児童も自分なりにまとめることができた。

読み取りにおいては、文章をよく読まずに感覚や経験で内容を判断する傾向があるため、一つ一つの語句を大切にさせたい。

書くことについては、「事柄毎に整理して書くこと」を学んできています。しかし、作文等では、その知識を十分に生かして書いていない児童もいる。

#### (2) 教材観

本単元に関わる主な指導事項は、「目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」(読むことイ)「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」(書くことウ)である。

「アップとルーズで伝える」は、私たちがもっともよく目にしているテレビ映像技法を中心に述べた説明的文章である。そのため児童にも身近に感じられる内容である。

また、写真と文章が照応していること、対比させながら論が進んでいくことなどの特徴をもっており、段落相互のつながりや役割を理解し、文章の構成を考えさせるのに有効な教材である。

「四年三組から発信します」は、「アップとルーズで伝える」で学習した段落構成や見出しを用いて、自らが情報の発信者となって、情報の収集・選択・発信を行っていくという活用型の学習内容である。

### (3) 指導観

本単元「大事なことをたしかめよう」では、

- ① 「すがたをかえる大豆」を大事なことをたしかめながら読むこと
- ② 「食べ物がかせになろう」で、大事なことをたしかめながら書くこと

の2つを学習する単元とする。そこで、大事なことをとらえて読む力・書く力をつける言語活動として、「食べ物ブック」作りを行う。

ここでいう「大事なこと」を、主に「キーワード（くふう）」と「段落相互の関係」（事例の取り上げ方）の2つととらえ、指導していく。そのため、説明文全体を通して繰り返し使われる言葉をキーワードとしてとらえ、本作りでは、事例の挙げ方の工夫を支える書き方として、接続語、指示語を正しく使うことを意識させ、書く活動につなげていく。

指導は、以下のように行う。

**見通す段階**で、食べ物ブック作りすることを設定し、学習の見通しを持たせる。

**つかむ段階**では、説明的文章の「すがたをかえる大豆」の読み取りで、以下のことをとらえさせる。

- ① キーワードと接続語を手掛かりにして3段落の文章構成をとらえさせる。
- ② 「初め」で話題提示、「中」で事例提示、「終わり」でまとめるという形式となっていることをとらえさせる。
- ③ 事例を挙げる順番に筆者の意図があることをとらえさせる。
- ④ 分かりやすい文にするために、指示語を使うとよいことをとらえさせる。

**まとめる・ひろげる段階**では、「食べ物ブック」を作るために、本での調べ方を知り、食べ物について調べ、分かりやすくまとめる活動を行う。そして、できた本を読み合う交流場面を設定する。そこでは、以下の2点を視点として交流を図る。

- ① 「分かりやすい文を書くコツ」を生かして書けているか。
- ② 「本での調べ方」が他のことにも生かせそうか。

見通しで、「食べ物ブックづくり」を提示し、本を作るために並行読書すること、「すがたをかえる大豆」は本作りのための読みの学習であることをとらえさせたい。単元の振り返りでは、学習したことを「説明文の分かりやすい書き方のコツ」としてまとめさせて、この学習で自分についていた力を児童が意識できるようにさせたい。

### (3) 指導観

本単元「材料の選び方を考えよう」では、

- ① 各段落が文章全体の中でどのような役割を果たしているか段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと
- ② 相手と目的に応じて、材料を選んで分かりやすく伝えること

の2つを学習する単元とする。そこで、材料を選んで伝える力をつける言語活動として、「大田代紹介カード」作りを行う。

説明文の読み取りでは、我々が得ているメディア情報は、一定の価値判断・意図に基づいて取捨選択されたものであることにも気づかせたい。また、発信する側からとして、多くの情報源の中から必要な情報を適切に選択する力をつけさせ、書く活動につなげていく。

指導は、以下のように行う。

**見通す段階**で、大田代紹介カード作りを知り、学習の見通しを持たせる。

**つかむ段階**では、説明的文章の「アップとルーズで伝える」の読み取りで以下のことをとらえさせる。

- ① 形式段落毎に小見出しをつけ、要点をまとめさせる。
- ② 小見出しと接続語を手がかりにして、対比をふまえた段落構成をとらえさせる。
- ③ 筆者の意図により、材料を決めたり、選んだりしていることをとらえさせる。
- ④ 身近な新聞・雑誌でも発信者の意図により、アップとルーズが使い分けられていることをとらえさせる。

**まとめる・ひろげる段階**では、「大田代小学校紹介カード」を作るために、調べ方を知り、大田代について調べ、目的や相手に合わせて選材してまとめる活動を行う。そして、できたカードを交流する場面を設定する。そこでは、以下の2点を視点として交流を図る。

- ① 相手と目的に応じた内容にまとめられたか。
- ② 相手意識、目的意識をもって表現することが他のことにも生かせそうか。

見通しで、地域のことを紹介した「大田代小学校紹介カード」を提示し、これからの活動への期待と見通しを持たせたい。単元の振り返りでは、相手や目的を考えて情報を選び、伝えるということについての自分の考えを書かせ、これからの生活での情報の扱いについて意識させていくようにしたい。

#### 4 目 標

	3 年 生	4 年 生
単元目標	◎ 食べ物について書かれた資料を、大事なことに気をつけて読み、自分で調べたことを大事なことに気をつけて分かりやすくまとめる。	◎ 対比・まとめなど段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り、読み方に生かすとともに、伝えたいことと伝える方法について興味を持つ。 ◎ 学校について知らせるために取材し、相手と目的に応じて選材して分かりやすく伝える。
関心・意欲・態度	◎ 身近な食べ物について興味を持ち、その不思議さや驚きを発見しながら必要な読み物を読もうとする。	◎ 伝える目的や相手に応じて、情報の材料や選び方や表現方法が異なっていることに気づき、自分が表現していくときに役立てていこうとする。
書くこと	◎ 興味のある食べ物を選び、それについて本などで自分の必要なことを調べ、調べた事柄が明確になるように段落を効果的に使って文章にまとめることができる。(Bウ)	◎ 学校に関する情報を集め、中心となる文や語をとらえ書こうとするものの中心を明確にして文を書くことができる。(Bウ)
読むこと	◎ 中心となる語や文に着目し、段落と段落のつながりを考えながら、文章を正しく読むことができる。(Cイ)	◎ 中心となる語や語をとらえ、段落と段落のつながりを考えて文章構成をとらえることができる。(Cイ)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◎ 指示語・接続語や文章表現に注意して読み、段落の役割を理解して、文章全体の組み立てをすることができる。(イ(ク))	◎ 対比やまとめなどに注意して読み、文章全体の中でのそれぞれの段落の役割を理解して、組み立てをすることができる。(イ(ク))

#### 5 単元の評価規準

	3 年 生	4 年 生
国語への関心・意欲・態度	・調べたい事柄についての読み物や図鑑などを興味を持って読もうとしている。 ・大事なことに気をつけて、食べ物についての説明文を書こうとしている。	・段落相互の関係を考えながら、文章を正確に読み取ろうとしている。 ・伝える相手や目的に応じて、材料を取捨選択し分かりやすく書こうとしている。
書く能力	・必要な情報を収集したり取捨選択したりしながら、段落と段落のつながりを考えて効果的に並べて文章にまとめている。	・相手や目的に応じ、必要な材料を収集したり選択したりして、書こうとするものの中心を明確にし、具体的事例を挙げて分かりやすく書いている。
読む能力	・中心となる語や文に注目して段落の要点をとらえ、段落のつながりを考え、内容を正しく読み取っている。	・それぞれの段落が文章全体の中でどのような役割を果たしているのかをとらえて読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	・指示語、接続語、文章表現に注意して読み、文章全体についての段落の役割を理解している。 ・事例の挙げ方を考えながら、指示語や接続語を使っている。	・対比やまとめなどの文章全体の中での段落の役割を理解している。 ・文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。

#### 6 単元でつきたい力

##### < 3 年 生 >

- ・ 段落相互の関係を考え、文章を正しく読む力
- ・ 目的に応じて本を選んで読む力
- ・ 必要な事柄を調べる力
- ・ 事例をあげて説明文を分かりやすく書く力

##### < 4 年 生 >

- ・ 段落相互の関係を考え、文章を正しく読む力
- ・ 目的に応じて情報を集める力
- ・ 相手と目的に応じて、材料を選んで分かりやすく書く力

7 単元の指導計画及び評価規準及び支援 <3年生> . . . . . 本時7 / 17

	学 習 活 動	主な学習内容	評価規準【評価方法】	Cの児童への支援
見 通 す ①	・学習課題『食べ物ブック』を作ろうを設定し、学習の見通しを持つ。 ・全文を読み感想を交流する。 ・食べ物の本の並行読書を確認する。	・感想の書き方  ・並行読書の仕方	・興味を持って教材文を読み、感想を書いたり話したりしている。 ・学習の見通しが持てる。 【関・意・態】ノート・発言	☆大豆やその加工食品を 実際に提示し、内容と 結び付けて文章をとら えやすくする。
②	・「すがたをかえる大豆」の文章構成（「初め— 中—終わり」の大きなまとまり）をとらえる。	・接続語、キーワード ・初め、中、終わり ・話題提示とまとめ	・文章構成を読み取り、「初め・中・ 終わり」の大きなまとまりをつか んでいる。 【読】ワークシート	☆題名と関係ある語、繰り返し 出てくることばに着目してキ ーワードを見つけさせる。
③	・初め（①・②）の話題提示段落を読み、大豆 の特徴について読みとる。	・話題提示文と問いか け文の違い ・指示語の使い方	・筆者がどのように話題提示してい るか、その工夫について読み取っ ている。【読】ワークシート・発言	☆指示語の指すものを示 して、指示語のない文 にして読ませる。
④ ⑤ ⑥	・中（③～⑦）の部分を読み、筆者が調べたこ とをとらえる。  ・おいしく食べる工夫と大豆の姿（食品）、手の 加え方をまとめる。	・工夫 ・食品 ・手の加え方 ・言葉の意味 （いる、にる、ひく、 すりつぶす、しぼり 出す）	・大豆をおいしく食べる工夫につい て、一つ一つの段落を読み、正し く読み取っている。  【読】ワークシート・発言	☆食品と手を加える時の 言葉の絵と文章を結び つけて読ませる。
⑦	・中（③～⑦）の部分を読み、どのように整理 しているか調べる。  【本時】	・事例の取り上げ方 （易→難） ・紹介の順序の工夫	・筆者が、事例を加工が簡単な順か らあげていることを読み取ってい る。【読】ワークシート・発言	☆中の部分を表にしたも のを提示し、手の加え 方に着目させる。
⑧	・はじめ（①・②）とおわり（⑧・⑨）の部分 の役割について考える。 ・分かりやすくする書き方についてまとめる。 ・食べ物ブックに生かすことをまとめる。	・初め（調べたものの紹介） 終わり（まとめ・感想） ・語彙の説明 ・接続語、指示語	・文章構成を確かめ、書く際に生か せることについて理解している。  【読】ワークシート・発言	☆「初め」がなかったら 何が分からないか、「終 わり」がないとどうか を考えさせる。
⑨	・「食べ物はかせになろう」を読み、「食べ物ブ ック」作りの計画を立てる。 ・本で調べる方法を知る。	・マッピング ・本の作り方を概観 ・本の探し方・調べ方	・「食べ物はかせになろう」を読み、 手順をワークシートにまとめるこ とができる。【関・意・態】発言	☆穴埋め式ワークシート を準備し、手順を埋め させる。
⑩	・本で調べたことや、分かったことなどをシー トに書き出す方法を知る。【モデル学習】 ・調べたことや、分かったことをシートに書き出す	・本の中の情報の探し方 ・書き出し方	・本で調べたい食べ物について情報を取 集し、シートに書く方法が分かる。 ・シートに3項目以上書いている。【書】シート	☆穴埋め式のワークを使 い、探し方を身につけ させる。
⑪ ⑫	・「中」の部分を書く。 ① 調べたシートを並べ替え、順序や段落を決定する。 ② 接続語を使って、下書きする。	・構成の仕方 ・接続語	・事例の易→難、単→複などの順を決定し、 観点に従って並べ替えたものを、接続語を 使って結び付けて書いている。【書】シート	☆並べる観点を一緒に考 える。
⑬	・「初め」の部分を書く。 （食べ物の紹介を書く）	・話題提示の仕方 ・調べたものの紹介	・調べたものについての紹介を読者を意識し た書き出しで書いている。 【書】シート	☆問いかけ文の形でもよ いことにする。
⑭	・「終わり」の部分を書く。 （まとめと自分の感想を書く）	・まとめの書き方 ・感想の書き方	・「このように」を使ったまとめの文と自 分の感想を書いている。【書】シート	☆その食べ物を選んだわけを感 想として書き換えさせる。
⑮	・書いたものを推敲し、清書する。 （初め—中—終わりの3部構成） （接続語を使う）（指示語を使う）	・推敲の観点 「初め・中・終わり」 「接続語・指示語を使う」	・3つの意味段落構成、接続語、指 示語の使い方をチェックして、直 している。 【書】シート	☆同じ言葉が続くところに 線を引かせ、後者を指示語 に置き換えさせる。
⑯	・表紙、目次をつけ、製本する。	・目次の書き方 ・表紙の書き方	・表紙、目次を書いて、製本してい る。 【書】本	☆穴埋め式にして、書か せる。
⑰	・「食べ物ブック」交流会をひらく。 ・4年生との合同交流会にする。 ・作品を読み合い、必要に応じて修正する。 ・感想や意見を発表する。	・感想の述べ方 ・修正の仕方	・段落や説明の仕方に着目しながら 感想を述べている。  【関・意・態】発言・シート	☆前出の「書き方に生か せること」について感 想を述べさせる。

7 単元の指導計画及び評価規準及び支援 <4年生> . . . . . 本時7 / 17

	学 習 活 動	主な学習内容	評価規準【評価方法】	Cの児童への支援
見 通 す ①	・学習課題『大田代の発見カード』を作って、発信しよう」を設定し、学習の見通しを持つ。 ・「アップとルーズで伝える」「四年三組から発信します」を読んで、感想を書く。	・新出漢字 ・語句 ・感想の書き方	・興味を持って教材文を読み、感想を書いている。 【関・意・態】ノート・発言	☆写真に注目させ、アップとルーズの意味をとらえさせる。
	② ・感想を交流する。 ・紹介したい相手を決める。 ・学習計画を立てる。	・感想の発表の仕方 ・学習計画の立て方	・進んで感想を発表し、学習の見通しをもつことができる。 【関・意・態】発言	☆新聞作りの時の手順を思い出させる。
つ か む ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	③ ・説明文を大きく3つに分ける。 ・文章構成図を書く。	・文章構成図の書き方	・段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかんでいる。【読】ワークシート	☆これまでの学習をもとに3つに分けると良いことに気づかせる。
	④ ・「アップ」「ルーズ」を色分けして読み取る。 ・①②③段落の小見出しをつける。 【モデル学習・・・小見出しのつけ方】	・キーワードの見つけ方 ・小見出しのつけ方	・段落相互の関係をおさえながら、アップとルーズの映し方の違いを読みとっている。【読】ワークシート	☆写真を手がかりにして、どの段落がどの写真かを結びつけさせる。
	⑤ ・「アップ」と「ルーズ」について色分けして、その長所と短所を見つける。 ・④⑤⑥段落の小見出しをつける。	・小見出しのつけ方	・段落相互の関係をおさえながら、アップとルーズのそれぞれの長所と短所をまとめている。【読】ワークシート・発言	☆キーワードを入れて体言止めするとよいことを思い出させる。
	⑥ ・⑦⑧段落とその前の段落との関係をおさえ、筆者の伝えたいことをとらえる。 ・⑦⑧段落の小見出しをつける。	・小見出しの付け方	・アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを読みとっている。【読】ワークシート・発言	☆キーワードを入れて体言止めするとよいことを思い出させる。
	⑦ ・新聞や雑誌を見て、書き手がアップとルーズをどのように使っているか考える。 【本時】	・対比 ・アップとルーズ ・目的に応じた伝え方	・目的に応じた伝え方が、身の回りの新聞や雑誌でもされていることを確かめることができる。【読】ワークシート・発言	☆アップとルーズの写真を探して、その説明の文を対応して読ませる。
	⑧ ・「四年三組から発信します」を読み、「大田代の発見カード」を発信しよう」の計画を立てる。 ・まとめ方のイメージをもつ。	・計画の立て方 ・発見カードの様式	・発信するまでの手順を理解し、進んで計画を立てようとしている。 【関・意・態】ノート・発言	☆カードを作るときの手順を教材の箇条書きになっている部分に着目して調べると良いことを知らせる。
	⑨ ・本文のメモと作品例を比べて違いと工夫を見つける。 ・「選んで伝える」を読んで、メモのしかたや記事の書き方の工夫をまとめる。	・比べ読み ・サイドライン ・書き方の工夫	・2つのテキストを比べ読み、違いを見つけ、サイドラインを引くことができる。【読】ワークシート	☆比較しやすいように、2つのテキストを上下に並べたワークシートを準備する。
⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	・相手や目的を考え、「大田代の発見カード」を書いて4年生から発信する。 1 題材を決める。 2 取材する。 3 写真を撮る 4 材料を選ぶ。 (「何を」「どのように」「目的」「相手」「相手の知りたいこと」「一番伝えたいこと」を考えて取材する) 5 下書きをする。 6 相手や目的を考えて、カードを仕上げる。	・マッピング ・取材の仕方 ・写真の撮り方 ・取材の仕方 ・1段落1事項で書く ・相手意識をもって、言葉を選ぶ	・題材を決めて、何をどのように伝えるか考えて取材し、選材している。 【書】ワークシート ・選材したものを、対比やまとめの書き方を使って、書いている。 【書】ワークシート・発言 ・相手意識・目的意識をもって発信しようとしている。 【書】ワークシート・発言	☆分からない部分については、教師と一緒に確認しながら進めたり、グループで教えあったりしながら進めさせる。 ☆学習記録として、「書くためのポイント」を教室に掲示しておき、それを見ながら進めさせる。
⑯	・単元を振り返り、相手や目的を考えて情報を選び、伝えるということについて、自分の考え・感想を書く。	・感想の書き方	・相手と目的に応じた選材にふれて、感想が書けている。【書】ワークシート	☆なぜ材料を選んで書くとよいかについて考えさせる。
	・「大田代の発見カード」交流会をひらく。 ・3年生との合同交流会にする。 ・できた作品を4年生から発信する。 ・感想や意見を発表する。	・感想の述べ方 ・修正の仕方	・文章の内容が分かりやすくカードに表されているかを相互評価できている。 【読】発言、メモ	☆振り返りの時の感想を思い出させ、同じ観点で他の人のカードについて感想を発表させる。

8 本時の指導（7／17） < 3年生 >

(1) 授業の構想

仮説1に関わって、本時で付きたい力は、「段落相互の関係をとらえる力」である。

仮説2に関わって、以下の通りに行う。

まず、「つかむ」の段階で、学習の流れを確認する。このことにより、学習の見通しを持たせ、目的意識を持って学習に取り組ませたい。また、「たしかめる」段階の直接指導で、説明的文章の事例の挙げ方に目を向けさせ、ひとり学びで事例の順序性とその意図について考えさせる。学び合いでは、それらについて自分の考えを出し合い、話し合わせる。「まとめる」段階で、本時の活動を振り返り、事例を取り上げることの意図について再度確認し、今後に生かせる力として意識させる。

(2) 目標

「中」を読み、大事なこと（おいしく食べる工夫）を観点にしたがって順序よくまとめていることが分かる。

(3) 展開

指導上の留意点（・） 評価（◎）及び支援（㊦）	主な学習内容	○ 学 習 活 動 ・ 予想される子どもの学習状況	段 階	形 態
<ul style="list-style-type: none"> <li>共通導入を図る。</li> <li>食べ物ブックを書くために学習することを確認する。</li> <li>前時までの学習を振り返り、5つの工夫があったことを確かめながら読むことを指示する。</li> </ul>		1 学習計画から、本時の学習課題を把握する。		直 接 3 分
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品と加工の工夫を確認する。</li> </ul>	「くふうや食品」をどうしてこのじゅんじよでならべているか考えよう。  2 教材文「すがたをかえる大豆」を読む。  ○ 各自黙読する。	つ  か  む  7 分	間 接  2 分

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のおよその流れを示し、見通しを持って取り組ませる。</li> <li>・ ②～③までが間接指導である。この部分を国語リーダーが中心に進めることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の手順</li> </ul>	<p>3 学習の流れと課題解決の方法を確認する。</p> <p>① <b>ひとり学び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな順序で書いているか調べる。</li> <li>・ 筆者は、どうしてこの順序にしたのかを考える。</li> </ul> <p>② <b>学び合い</b></p> <p>③ まとめる</p> <p>④ 振り返る</p>	<p>直 接 10 分</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続語と「時期と育て方」という語に着目させ、⑦が一番最後に事例としてあげられていることを確かめる。</li> <li>・ ⑦をほかの4つの工夫と分けていることをとらえさせる。</li> <li>・ ③～⑥の並べ方にもわけがありそうだということをつかませ、ひとり学びへとつなげる。</li> <li>㊦ 筆者は、加工が簡単な順（すがたをかえる順）に事例をあげていることを読み取っているか。</li> <li>㊧ 加工方法と食品を段落毎にまとめた表を示し、手の加え方に着目させる。</li> <li>㊨ 題名「すがたをかえる大豆」と結び付けて考えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く終わった児童は、短冊に考えを書いて、発表の準備をするように声掛けする。</li> <li>・ 学習リーダーに話し合いの手引きを持たせ、進行させる。</li> <li>・ 自分の考えを明確にさせ、友だちの考えと比較させる。</li> </ul>	<p>接続語 「これらのほかに」 「取り入れる時期」 「育て方」</p> <p><b>事例の順序性</b> をさがす観点 ・ 共通するもの ・ 形、すがた ・ 難易度 ・ 認知度 等</p> <p><b>発表の仕方</b> ・ 文中のことはや絵等を根拠としてあげる。</p> <p><b>筆者の意図</b> 目的意識 ・ 何を 相手意識 ・ 誰に</p> <p><b>話し合いの仕方</b></p>	<p>4 ⑦の事例は、大豆のすがたが他の4つの工夫と違うために、最後に挙げられていることを確認する。</p> <p>○ 段落③～⑦を2つに分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「③～⑥」と「⑦」</li> </ul> <p>○ 段落⑦をほかと分けて、最後にのせていることを確認する。</p> <p>5 ひとり学びをする。</p> <p>○ 4つの工夫をどんな順序にならべたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手を加えるのが簡単な順序</li> <li>・ ダイズのすがたが分からなくなる順序</li> </ul> <p>○ 筆者がこの順序にならべたわけを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「大豆はすがたをかえる」というすごさを伝えたいから。</li> </ul> <p>6 学び合いをする。</p> <p>○ リーダーを中心に、どんな順序で書いているかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大豆のすがたに近いものから</li> <li>・ 加工の手順が簡単なものから</li> </ul> <p>○ わけを確かめ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読む人が読みやすい。</li> <li>・ 手を加えるのが簡単な順に並べてある方が、「すがたをかえる」すごさが伝わりやすい。</li> </ul>	<p>た し 間 接 10 分 る 直 接 10 分</p>

<p>⑥ 本時学習の要点をまとめることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書き出しを提示し、続けて書かせる。</li> <li>事例の挙げ方に気をつけながら音読するようにさせる。</li> <li>分かったことを4年生にもわかりやすく伝えさせる。</li> <li>家庭学習で、「大豆以外にも同じようにすがたをかえているものがあるかさがしてみる」ように促す。</li> <li>食べものブックを書くための学習であることを意識させ、「初め」と「終わり」が必要かを考える学習になることを伝える。</li> </ul>	7 学習のまとめをする。	ま と め る  10 分	直 接
	<p>ひっ者は、つたえたいことを考えてじゅんじよを決めている。</p> <p>・例を挙げる 順序</p>		

(4) 板書計画

ひっ者は、つたえたいことを考えてじゅんじよを決めている。

⑤ 取り入れ次期・・・えだ豆

④ 小さな生物・・・なつとう

③ 大切な・・・とうふ

② 粉にひいて食べる きなこ

① そのままいたり、にたりして・・・に豆

おいしく食べるくふう 食品

解決の方法 と 学習の流れ

子どもの発表短冊

子どもの発表短冊

子どもの発表短冊

課題 「くふうや食品」をどうしてこのじゅんじよでならべているか考えよう。

すがたをかえる大豆 国分 牧衛



8 本時の指導（7/17） < 4年生 >

(1) 授業の構想

仮説1に関わって、本時で付けたい力は、「正しく読み、まとめる力」「読みとったことを実際の生活と結び付け、生かそうとする力」である。

仮説2に関わっては、以下の通りに行う。

まず、「つかむ」の段階で、学習の流れを確認する。このことにより、学習の見通しを持たせ、目的意識を持って学習に取り組ませたい。また、「たしかめる」段階で、身の回りにあるものからアップとルーズを探し、その効果について確かめさせる。ひとり学びで自分の考えを持たせ、学び合いで考えを深めるようにさせる。「まとめる」段階で、本時の活動を振り返り、アップとルーズの効果を再度確認し、次の活動に生かせる力として意識させる。

(2) 目標

筆者の書き方に目を向け、目的に応じた伝え方になっていることをつかむ。

(3) 展開

形態	段階	○ 学習活動 ・ 予想される子どもの学習状況	主な学習内容	指導上の留意点（・） 評価（◎） 支援（⊕）
直接 5分	つかむ 5分	1 学習計画表から、本時の学習課題を把握する。		・ 共通導入を図る。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">書き手は新聞や雑誌でアップとルーズをどのように使っているか、考えよう。</div> 2 学習の流れと課題解決の方法を確認する。 ① <b>ひとり学び</b> ・ 記事を読む ・ アップとルーズをさがす ・ 書き手は、なぜそう書いたかを考える。 ② <b>学び合い</b> ・ 一人一人発表する ・ 話し合う。 ③ まとめる ④ 振り返る	・ 課題解決の見通し  ・ 学習の手順	・ 解決の見通しをもたせる。  ・ 見通しを持って学習が進められるように、本時の流れと目安の時間を提示する。  ・ ②③を学習リーダーを中心に進めることを確認する。

<p>間 接 10 分 し か</p>	<p>3 ひとり学びをする。</p> <p>① 記事を選んで読む。 ② アップとルーズをさがす。 ③ アップを赤、ルーズを青で色分けする。 ④ 特ちょうがそれぞれ生かされているかをチェック表でチェックする。 ⑤ 分かったことを発表できるようにメモする。 ⑥ なぜ、そのように書いたのか、書いた人のねらいを考える。</p> <p>4 学び合い</p> <p>○自分の調べたことを一人一人発表し、話し合う。</p>	<p>・アップ ・ルーズ</p> <p>・効果 ・意図</p> <p>「送り手の伝えたいこと」</p> <p>「受け手の知りたいこと」</p>	<p>・アップとルーズが使われている新聞や雑誌をあらかじめ準備しておき、1人に1つ以上渡るようにする。 ・ワークシートを用意し、ひとりで学習を進められるようにする。</p> <p>㊦ 身の回りの記事でも、目的に応じた伝え方がなされていることをつかむことができたか。</p> <p>㊧ アップとルーズの写真をさがして、その説明の文を対応して読ませる。</p>
<p>直 接 10 分</p>	<p><b>発表例</b></p> <p>「この記事は、アップ（ルーズ）が使われています。」 「～と書いてあるので、～の様子がくわしくわかります。」 「筆者は、～のことを知らせたかったので、アップ（ルーズ）を使ったのだと思います。」</p>	<p><b>発表の仕方</b></p> <p>・根拠を持って ・事例を示して</p>	<p>・国語リーダーが中心になって、話し合いを進める。</p> <p>・話し合いの手引きを活用させる。</p> <p>・自分の考えを明確にさせ、友だちの考えと比較させる。</p>
<p>30 分 間 説 10 分</p>	<p>「〇〇さんの意見を聞いて、～だと思いました。～だからです。」 「〇〇さんと同じで～」 「〇〇さんと違って～」</p> <p>○ アップとルーズの効果をまとめる。</p> <p>・アップにしてよかったところ ・ルーズにしてよかったところ ・送り手は、どのようにアップとルーズを選べばいいですか。</p>	<p><b>意見の言い方</b></p> <p>・相手の話を受けて意見を述べる。</p> <p><b>筆者の意図</b></p> <p>・相手意識・目的意識をもって、題材を選んで伝えている。</p>	<p>・これまでにとまとめた、アップとルーズの特徴をまとめたものを参考にして、照らし合わせる。</p> <p>・自分が発信者になった時にどうするとよいかを意識させる。</p>

間 接 5分	ま	5 学習のまとめをする。  新聞や雑誌でも、書き手はアップやルーズを使って伝えたいことを工夫してまとめている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでにまとめたアップとルーズのまとめを確認し、書き出しの文を与え、続けて書くようにさせる。</li> </ul>
	と		<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 何が分かったか</li> <li>• これからに生かせそうか</li> <li>• これからしてみたいこと 等</li> </ul>	
直 接 5分	め	6 学習を振り返る。 ○ 今日の発見をノートにまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習感想を書かせる。</li> <li>• 3年生にもわかるように、具体的に書かせ、発表を通して交流させる。</li> <li>• 今日の学習を受けて、「家でも、同じようにアップとルーズの例を探してみる」ように促す。</li> <li>• 知らせたいことを発信する活動に意欲を持たせる。</li> </ul>
	る	7 次時の学習を確認する。 ○ 学んだことを生かして、情報の発信をしていく計画を立てる。		

(4) 板書計画

